



盛甘肅省武威市人民委員長 馬甘肅省武威市人民委員長



奈良県知事 荒井県知事

奈良県並びに中国・甘肅省主催の「漢方薬日中シンポジウム」が十一月九日午後一時三十分から奈良市の県文化会館国際ホールで盛大にひらかれ、県内外から医師の関係者や一般市民ら多数が出席した。＝写真＝

甘肅省は中国北西部に位置する省級行政区で省都は蘭州市。漢方薬材産業が盛んで、年間取引量は現在、十八万トンにのぼり、中国の輸出量全体の多くを占める。漢方薬材産業が同省農村の経済発展を促進し、農民に収入増加をもたらす主要産業になっている。同省で

漢方浸透で『奈良の薬』復興を 奈良 漢方薬日中シンポジウム



奈良県の配置薬事認定講習会は、十一月九日午前十一時から奈良市の県文化会館でひらかれ、会員七十名が出席した。岡橋秀典県医薬品配置

漢方薬をテーマに研修 奈良 配置薬事認定講習

協議会副会長の司会で進められ、あいさつに立つた谷直人県医療政策部長(代理)・吉川正人同業事献血係長は、日頃の業務行政への協力に

感謝しながら、午後からの漢方薬日中シンポジウムに併せて漢方薬を研修テーマに選んだことを紹介し、有意義な研修会となるよう協力を要請。

一方で井筒大勝県協会長があいさつに立ち、三月の東日本大震災および九月の紀伊半島大水害の



井筒県協会長

深刻な被災状況を説明。自身の体験として紀伊半島大水害で被災し、交通網が寸断され孤立したおぼろげな状況を訪問したところ「手元に配置薬があったら、被災した顧客を訪問するタイミングは非常に難しいものがある

深謝しながら、午後からの漢方薬日中シンポジウムに併せて漢方薬を研修テーマに選んだことを紹介し、有意義な研修会となるよう協力を要請。

一方で井筒大勝県協会長があいさつに立ち、三月の東日本大震災および九月の紀伊半島大水害の

深刻な被災状況を説明。自身の体験として紀伊半島大水害で被災し、交通網が寸断され孤立したおぼろげな状況を訪問したところ「手元に配置薬があったら、被災した顧客を訪問するタイミングは非常に難しいものがある

はさらに漢方薬材の生産や加工システムの確立を急ぎ、市場型営業メカニズムの整備、研究開発システムの推進に力を入れている。これによって漢方薬材の現代的な加工基地とし、産業に強い省を目標として長期的な目標を實現しようとしている。

冒頭、あいさつに立つた荒井正吾県知事は「昨年、日中の文化観光交流で中国を訪れた際、甘肅省は中国で第二位の生薬の生産地であり、日本で生薬発祥の地とされている。当県が協力して漢方薬の勉強会を開催し、漢方薬産産を盛り上げることができないものだろうか

と提案を受け、一年ほどかけてシンポジウムの準備を行ってきた」と開催までの経緯を説明。

また「奈良のくすり」の歴史として、西暦六一一年に推古天皇が宇陀地方で薬狩りを行ってからの年々で一千四百年の節目とともに「昨今、漢方薬は健康と健康長寿に大きな効果があることが明らかになり、世界中で注目が集まっている。そんな中で奈良の伝統ある生薬・漢方薬の生産を重要な地場産業として再び蘇らせることができないものかと腐心している。日中の漢方研究者が一堂に集まり、討論を交わすことで、双方の漢方薬産業が発展し、日常生活に漢方薬がさらに普及・浸透するよう」と述べた。

一方で甘肅省の盛延文武威市人民委員長があい

さつに立ち、「当省は生薬資源の宝庫であり、海外でも知られている。日本は重要な貿易パートナーであり、お互いが生薬に関して理解を深め、一層の発展につなげていきたい」と強調した。

特別講演に入り、講師の日本東洋医学会・米田該典元副会長は「奈良のくすり風土記」のテーマで一時間にわたり講演。

○：大和の古刹には伝承薬、高取地区には多くの家庭薬メーカーが古くからあり、配置薬などとして全国の人々の健康を守ってきた。それぞれの薬は何百年という長い歴史を有している。現在は原料の多くを中国や近隣諸国から輸入しているが、以前は国産、それも県下で生産された薬草を大量に使用していた。県には大和六薬といつてトウキやシャクヤクなど

が増加すると、薬の需要も増えてきた。このため各地で生薬の生産が始まり、大和では驚くほど多くの薬の知識が蓄積された。江戸時代における具体事例が宇陀の森野旧薬草園であり、高取地区の製薬企業群である。都が京都、鎌倉、江戸に移っても、大和の地で集められ、生産した薬は常に各地に届け続けられて

きた。そして常に薬への思いを育んできた。生産者は技術の改良を重ねてきたからこそ、大和ブランドの薬が生まれた。

○：明治以降、県内の様子は多様化し、さまざまな形で地域分担が明らかになり、薬の生産は南大和に集中し北の方では薬の使い方を学んだ。このように薬一つでもいろいろな事情が複雑に絡み合っている。それを巧みに育んできたのがその土地の風土。まさに人の歴史から人の歩みが生まれてきた。そんな生活の知恵が伝わっている。

医師の7割が漢方薬を採用

原料生薬の安定供給をひきつづき甘肅省中医学研究員の姜華主任薬師が「甘肅本場の生薬資源の現状と問題」、甘肅省定西市中医学産業発展辦公室の馬志忠主任が「甘肅省定西市中医学産業発展の現状と問題」をテーマにそれぞれ講演した。

このあと「漢方薬・温故創新」これからの漢方薬のあり方を考える」と題するパネルディスカッションに移り、コーディネーターを慶應義塾大学の渡辺賢治准教授、パネラーを東京女子医科大学

の佐藤弘教授、日本東洋医学会の米田元副会長、日本生薬連合会の嶋田康男技術委員の各氏が務め奈良の薬業復興等に関するさまざまな角度から討論が行われたが、その中で、医師の七割以上が日常診療に漢方薬を用いている事例が紹介され、国民の医療を支えている漢方薬を将来も安定的に患者に提供できるようにするため、原料生薬の安定供給に向けた取り組みを求める意見が出された。

最後に総括として①奈良の持つ魅力を最大限に引き出し、長い歴史を有する生薬の伝統に誇りを持ってほしい②後継者の育成に力を注いでほしい(伝統は一度廃れてしまうと、復活には相当な時間がかかる)③中小の農家で生薬の栽培から出荷まで総てを行うには限界があるため、そのノウハウを継承するためにも、新たな企業組織を立ち上げることができないか④の三項目を県への提言とすることを決めた。

同日は「奈良と薬草の歴史展」「身近な薬草の写真・絵画展」「医食同源体験」「足湯体験コーナー」に加え、県内配置薬メーカーがブースを設けて企業展示を行った。



馬甘肅省定西市公室主任



姜甘肅省中医学研究員主任薬師



佐藤東京女子医大教授



渡辺慶應大准教授



嶋田日本生薬連合会技術委員



米田日本東洋医学会元副会長

お風呂で健康!

毎日温泉気分!

パパヤ植物性酵素配合入浴剤

パパヤ桃源®

健康関連製品

- 入浴剤(酵素・生薬配合浴剤)
- パパヤゼ加工食品、飲料
- カルシウム加工食品、飲料
- ゲルマイン加工食品、飲料
- 日本ミネラルウォーター
- 飲む温泉水
- レトルト食品(お粥、他)、飲料
- 50ml、100mlドリンク
- 190ml缶入飲料、茶

パパヤ植物性酵素配合入浴剤パパヤ桃源 本舗 五洲薬品株式会社

痛みのない快適な生活をサポートします。

関節痛・腰痛・眼精疲労・肩こり・手足のしびれ

コンドロイチン配合
塩酸グルコサミン(緩衝剤)

ポリアニンコンドロ DXα

第3類医薬品

3つのビタミンが、神経・筋肉系に作用
血管系に働きかけるビタミンE
関節の痛みを改善するコンドロイチン

160カプセル 定価 ¥10,000+税
160カプセル×3個入 定価 ¥30,000+税
(¥10,000×3個入)